

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



草の根教育実習 特集号

北海道教育委員会と北海道教育大学の連携による

「草の根教育実習」を北海道全域のへき地校で実施!!

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

【北海道教育委員会と連携した実施体制の推進とへき地校体験実習の受入校の拡大】

現在、北海道教育大学は北海道教育委員会と連携して、「草の根教育実習」という「へき地校体験」を実施しています。今年度の「草の根教育実習」は単位化している実習ではありませんが、すでにカリキュラムに位置づけて実施している「へき地校体験実習」を補完し、受入校や参加学生の拡大を目的としたものです。今回の「草の根教育実習」の実施に際しては、北海道教育委員会が全面的に中心となって、全道市町村や学校に呼びかけて頂き、実施することができました。

【43校の受入れと70名の参加希望者

—5キャンパスからの参加希望者—】

受入れを呼びかけた結果、この「草の根教育実習」には全道14管内の43小中学校から受入れを希望して頂



学習到達度のチェックと個別指導



仁木中学校での草の根教育実習

きました。これに参加する学生を募ったところ、

札幌校・旭川校・釧路校の教員養成3キャンパスに加えて、函館校・岩見沢校で教師を志望している学生からも参加希望がありました。希望学生数は5キャンパスから70人に上りました。

すでに10月から実施しており、これから実施する学校では2月までに実施する予定です。受入れ期間は2日から1週間で、学校の都合によって決めています。各参加学生は受入れ校と日程調整の上、各自でへき地・小規模校に赴任しています。現在はコロナ禍にあるため、地域の状況を見ながら日程を再調整しています。

【参加学生の経験と感想 一子どもとの密接な関係に喜び】

すでに「草の根教育実習」に派遣されて終了した学生は、へき地・小規模校での子どもと先生の密接な関係を肌で感じ取り、少人数学習指導のあり方、少人数での板書方法、学級経営方法などを学んできました。また地域と結びつきが強いことを生かして、地域と結びついた地域教材開発のあり方も学んでいました。学生たちはこれまで経験した市街地・大規模校と比較しながら、「小規模校は子どもと密接な関係ができることを実感しています。学校が地域の中心として機能していることや、少人数で工夫して学びを深めていく様子を見ることができた」と充実した感想を寄せていました。



鴛泊中学校での草の根教育実習

【「草の根教育実習」の今後の可能性】

草の根教育実習は、学生の教育実践力や教育観を広げる上でも大変効果的ですが、さらに過疎地域にとっても交流人口を増やし、過疎地域を活性化する上で効果的なものとなっています。北海道は過疎地



が多く、へき地・小規模校に赴任し定着できる若手教師を増やすことは極めて重要な課題です。また全国的にも過疎化・小規模校化が進む中で、草の根教育実習は、学生の経験を広げ、教員養成大学の新たな養成課題を指し示すものと言えます。

今年は「草の根教育実習」と「へき地校体験実習」は別々に実施しましたが、次年度以降は、北海道教育委員会と調整しながら、連動できる方向で調整していきます。

仁木中学校での草の根教育実習

草の根教育実習の参加者の感想

へき地・小規模校におけるICT活用の先進性を学んだ 草の根教育実習!!

北海道教育大学大学院学校教育専修 安田 洋幸

【目的を持って参加した草の根教育実習】

今年度からの取組として始められた草の根教育実習では、へき地・小規模校での多様な体験活動を進めることで教員としてのやりがいを再発見するとともに、地域の関係づくりを結ぶことが目的とされている。そこで私は、自身の研究テーマである「へき地・小規模校におけるICT活用の現状」について焦点化し、「GIGAスクール構想」や「1人一台タブレット」等に力を注いでいる実践校をメインにピックアップし、今回の実習に臨んだ。大学での学びでは触れることのできないICT機器の使用法や実際の活用場面を観察できたこと、またタブレット導入に際する課題について現場の声を聞いたことは大きな収穫となった。各学校や地域によりICT教育の実態や実践方法は大いに異なる中で、それぞれの良さや課題についてとらえることができた実りある実習となった。

【利尻富士町立鷺泊中学校で経験したICT教育】

○利尻富士町ではChromebookを採用し、先生方には機器を慣れさせることを目的に先行的に配布していた。生徒1人1台も実習期間中に配布されていた。

○個人のアカウントを設定し、操作方法や機能の確認を教師と生徒間で行っていた。またコロナ禍における休校期間中においては、各家庭に端末を持ち帰らせてのオンライン授業を実施していた。

○Wi-Fi環境がない家庭については、教育委員会が各家庭にポケットWi-Fiを貸し出していた。



北海道教育大学釧路校
院生 安田 洋幸

【仁木町立仁木中学校で経験したICT教育】

○仁木町は、9月ぐらいから全ての生徒に配布していた。美術専門の校長先生が率先して推進していた。

○国語の授業では先生が課題を生徒に送信して、その課題の回答を先生に返信する。その個々の解答を先生が共有し、個々の生徒のパソコン内で全員の解答内容を見られるようにしていく。

○日常的には通常講義の形態をとりながら、ロイロノートを使っている。リンクも張っているので、そこに飛んだりしている。1日に2~3回ぐらいは使っている。

○体育では、パフォーマンスを映してふり返しを行う際に活用している。映像が遅れて画面に投影されるように設定しているので、生徒が実技を行った後にすぐに自分の実技を確認するという使い方をしていた。



鷺泊中学校での草の根教育実習

【遠方の学校とのオンライン交流】



仁木中学校での草の根教育実習

○へき地の子どもたちは外との関わりが比較的希薄であるため、遠方の学校との交流（オンライン活用）をしたいと思います。

○先生方の中ではICTの活用方法を教え合いながら研修を進めていた。

○国語の感想をタブレットに書かせたりしている。意見交流がやりやすくなっている。

○奈良県で統一してタブレットを購入しているので、それを参考にして仁木町は取り入れている。

○将来の自分の勤務校とこれらの学校との交流事業を進めたいとお願いしてきた。道内外と府県との交流で、異なる文化の地域・学校と交流できると考えた。

【授業評価もタブレットで回答】

- 授業評価アンケートも全部タブレットで回答できるようにし、すぐに集計されて分析されていた。
- 中学校教員が、小学校へICT支援に行くこともある。
- 自分のアカウントを一つ作っておけば、小学校から中学校までそのアカウントを使うことができるので、小中学校で学びの記録を継続的に振り返ることができる。クラウドに個人の学びの記録が蓄積されている。活動等の写真も保存できる。
- パワーポイントも子どもたちが自分で作れるように指導している。そのため子どもたちが自分で、パワーポイントを使って発表したりしている。



仁木中学校での
草の根教育実習

授業だけではなく、地域連携の必要性を意識できた 草の根教育実習！

北海道教育大学大学院学校教育履修 木田 美也子

【古平小学校と仁木中学校に参加しました】

<実習内容>

- 低学年→中学年→高学年と順に学級にTTとして入らせてもらって、困っている子どもの個別指導をさせていただいた。子どもの苦手や目をかけて欲しいところは事前に教えていただいたので、授業・学級ごとに異なった観点を持って子どもと関わる事ができた。
- 地域の学校合同研究会に参加させていただいた。その町には小学校・中学校がそれぞれ1校ずつしかないため、小学校から中学校にかけて9年間を見通した意見交流が行われており、地域で子どもを育てていることを実感することができた。
- 地域の特色を生かした授業を観察し、地域のなかで育つ子どもの実態を知ることができた。



北海道教育大学釧路校
院生 木田 美也子

【ICT研修やICTにおける可能性と課題の学習】

- ICTを導入する過程や、どのように利用しているかを教えていただいた。実際に授業で使っているところを観察したり、ICT研修にも参加させていただき、ICT教育の良い点・悪い点について実際に子どもたちの様子を観察しながら知ることができた。



授業観察実習をする草の根教育実習生



給食の時間

< 感想 >

○実習先を自分で選ぶことができたので、興味のある内容に力を入れている学校や特色のある地域に行くことができ、強い関心を持って実習に取り組めた。自分の出身地域での実習は、教職への意欲をより高めてくれた。

○教育実習では授業実践ばかり意識が向いてしまっていたが、草の根教育実習ではへき地小規模校と地域との関わりを強く意識することができた。地域連携の視点は教育実習に行ったときにはなかった視点だったので、よい経験ができたと思う。

○短期間だが複数の学校に実習に行くことができたため、地域によって異なる子どもの様子を感じることができた。また、たくさんの先生と話すことができるため、子どもとの接し方や授業のやり方を多くの視点から見ることができた。

○普段交流のない他キャンパスの人と実習を通して関わることができ、自キャンパスだけではない新しい出会いがあった。



授業中の子どもの学習状況の確認



学校経営活動の参観



給食配膳準備



理科実験指導

教職への意志を強くした草の根教育実習

—都市部で育った私が経験したへき地・小規模校の新鮮な体験—

北海道教育大学札幌校教員養成課程生活創造教育専攻
総合技術教育分野3年 境 大空

【草の根教育実習 厚田学園 11月9～10日】

1. 厚田学園について

近隣の小中学校3校が閉校となり、統合する形で厚田学園が開校した。海沿いにあり、近くには道の駅などがある。義務教育学校であり、小中一貫、小学部は複式学級があり、5、6年生の算数、英語、理科、社会、国語等は教科担任制を導入し、5、6年生別々の授業もある。中学部の一クラス2～5名であった。

2. どのような実習であったか

【1日目】

校長先生とお話する機会を頂き、地域根ざした学校（社会に開かれた教育課程）の実現のために厚田コミュニティ・スクール

（学校運営協議会）による学校運営の充実、道の駅あいろーど厚田など近隣の施設との連携した学習などの地域と共にある学校とは何かということを教えて頂いた。特に厚田を誇りに感じ、地域を支える存在を育てることについてなどを教えて頂いた。



北海道教育大学札幌校
学生 境 大空

2、3時間目の5、6年生のパートナーズスクール制度による2校交流会では厚田学園の生徒が学校紹介や厚田周辺の紹介、道の駅の探索などを共に行い、交流する授業であった。普段少人数があたり前となっている子ども達は少し緊張した様子であった。この活動は、このような大人数の学校との交流から他者との協同やコミュニケーション能力を育てる目的のもとで行われている。

算数では5、6年生を教科担当別学習による2学年に分かれたそれぞれの授業を行っていた。細かなつまづきを見ることが出来るため、個別の対応が充実しておりそれぞれの苦手を把握し粘り強く取り組める点や電子黒板を用いた答え合わせなどICTを活用した授業が展開されていた。

1、2年生の体育ではボール遊びを行い、人懐っこい低学年に翻弄されながらも楽しみながら、体育における課題解決学習の一端や少人数ながらの工夫を見ることが出来た。道徳では、学年別の現状の課題や人としてのマナーなどを少ない人数だからこそ出来る、全員が言い合い認め合う授業について勉強させて頂くことが出来た。

【2日目】

自分が志望する中学校技術科の授業を見学させて頂き、実際の現場の中学校技術科の授業について学ぶことが出来た。特に生徒が楽しそうに実際に取り組める様子から、技術科の実践的に取り組む活動を多く行えるという、技術科ならではの良い点を活かした授業の方法について勉強になった。

3、4年生は複式ならではの授業を見学することが出来た。“わたり”や“ずらし”の組み合わせや自習ベースだからこそできる演習をしっかりと行う授業で、児童も自分から課題プリントを進んでやる姿など、意欲的に取り組む姿が見られた。ここでも少人数だからこそ、児童それぞれのつまづきに気づき、個別の指導を行う重要性や、互いに交流し、主体的な学習を行い、思考力を育む授業とはどういったものかを学ぶことが出来た。

5、6年生英語では、英語のスピーチコンテストを行っており、それぞれのレベルに合わせた指導や、児童の持つ能力の高さに驚いた。自分が9月に実習していた所では英語を音や動作で捉えており、単語やその意味についての関連があまり出来ておらず、出来る子と出来ない子の差がはっきりしていたのだが、個別に丁寧に指導出来るからか、平均的な英語のレベルがとても高く、単語の意味の理解度の高さ、発音などが上手である印象を受けた。これらは教科担任制による高い指導力を持った教員が受け持つ故なのではないかと感じた。

8年生の技術科のプログラミングの授業では、楽しそうにプログラミングの学習している生徒を見て、実践、体験的授業の大切さとプログラミング教育の難しさである思うように動かない際にどう生徒に改良を行わせるか、これらの難しい点を教師の指導能力でカバーできるかということが問われると改めて考えさせられることとなった。

【草の根教育実習 厚田学園 2日間(11/9～10)の日程表】

	11月9日	11月10日
1時間	厚田学園の紹介、校長先生との談話	実習担当の先生との談話、7年生 技術
2時間	5年生 パートナーズスクール活動	3、4年生 算数
3時間	花川小学校との交流、厚田学園周辺の紹介、運動など	3、4年生
4時間	5、6年生 算数	5年生 英語
5時間	1、2年生 体育	8年生 技術
6時間	7～9年生 道徳	5～9年生 授業見学
他	1、2年生との昼休み交流等	掃除等の縦割り担当別体験

4. まとめ 一系統的9年間の学びを深めた草の根教育実習一

2日間という短い実習であったが、とても勉強となるが多かった。私が夏に経験した教育実習とは学校の様子や児童の姿もまるで違い、同じ5年生でもここまで落ち着きや、大人びているのかとその違いを感じた。地域差もあるとは考えられるが、なにより全校での縦割り清掃や、ブロック（4-3-2の学年ブロック）毎の下学年を引っ張る活動が多いこと、中学生と気軽に話すことが出来るため相互に相談し合える環境や、助言し合い成長できる点などが、子ども達を実際の年齢以上に育て上げるのではないかと感じた。中学生となると難しい年齢であり、なかなか小学生達とは関わりにくいのかと思っていたが、普段から共同の清掃などで下学年をまとめ上げなければならない存在であり、学校行事や役割に関わるためか、学校全体の繋がりが強い印象を受けた。

【フレンドリーなへき地校の子どもたち】

とてもフレンドリーで小学生たちとも仲が良い雰囲気があった。これは都市部の学年毎、クラス毎の繋がりが強く部活等のみでしか関係がない学校の生徒の姿とは違うように感じられた。また授業の面では、少人数だからこそ手厚く支援を行え、児童・生徒のつまずきや個別の対応をし易い点が少人数学級/クラスの利点であると強く感じた。30人以上の学級であると一部の子の対応に時間を取られ、全体が遅れ気味になるという事を考えるとあまり一人一人に向き合う時間も少なくなってしまうが、教師と児童・生徒同士が普段からコミュニケーションを取り合い、様々な方向から相互に教え合う事が出来るため、一人一人学校における居心地が良さそうであった。

また、今年開校したばかりの学校ということもあり、デジタル黒板や一人一台のPCの所持、普段から使用する活動の充実など積極的にICTを活用した教育を行っており、児童・生徒のITスキルも高いように感じられた。デジタル教科書やプリントの印刷による自習、発表し話し易い環境など自主、自律的に学習し意欲を高めることが出来る現代の教育システムについて見ることが出来たと共に、このような環境を有効に活用できる授業について考えさせられた。時代に合わせた教育システムについて、このようなICT技術を有効に使っている学校がより増加すれば、時代に合ったこれからの子ども達に求められる情報活用スキルの向上や、より分かりやすく深い学びに繋がる授業を行えるようになるのではないかと感じた。

また、地域に根差した教育で、自分の地域に誇りを持ち、地域の人との交流が多数あるためか、地域が学校を支えるこれからの学校に求められる社会に開かれた教育課程とはどんなものかということの一例を学ぶことが出来た。自らのキャリア形成や将来に目指す道を考えやすくなり、地域に親しみを持ち自分自身がどう生きていくかということを考えるきっかけになるのではないかと考える。

【都市部で育った自分から見た小規模校】

都市部の学校しか通ったことがなかった自分は、短い時間ではあったが道内の学校についての実態の一部を知ることが出来たと共に、こういった少人数の学校に勤務できたらとても楽しいだろうなと感じた。中学校技術科という特性上このような少人数制の学校に勤めることは難しいかもしれないが、このような学校全体で児童・生徒を育てられる環境であれば、より探求的な授業や児童の実態に応じた授業というのも作りやすいのではないかと考える。夏の教育実習では中学校の教員志望ではあるものの小学校主免であるため、小学校に行くこととなった。それ故に本来に来年の教員採用試験で中学校技術科の教員を目指しても大丈夫なのか不安であったが、今回、技術科の授業を2回見させて頂く機会を頂き、生徒が楽しそうに試行錯誤をする姿、課題解決をする姿を見てやはり自分は中学校技術科の教員になり、北海道の技術科の教育を向上するべく頑張っていきたいという意志を強くすることが出来た。様々な不安はあったが結果的にこの教育実習に参加し、北海道の教育を担う教員になりたいと思えたと共に、このような機会に恵まれたこと、コロナ禍という厳しい状況ながら温かく向かって下さった厚田学園の皆様へ感謝し今後の糧にしていきたいと考える。

令和2年度「草の根教育実習」受入れ小・中学校校一覧

下表のように多くの小中学校で草の根教育実習生を受入れて頂き、ありがとうございました。コロナ渦で負担が大きい中、学生を快く迎え入れてくださり、誠に感謝いたします。また、北海道教育委員会には、草の根教育実習の実施にあたり、全道市町村や学校への呼びかけ等、多大なご協力を頂き、へき地教育での多くの後継者育成にご尽力いただきました。関係者のみなさま、本当にありがとうございました。

	管内	市町村	受入小・中学校		管内	市町村	受入小・中学校		
1	空知	北竜町	北竜中学校	24	留萌	初山別村	初山別小学校		
2		沼田町	沼田小学校	25			初山別中学校		
3	石狩	石狩市	厚田学園	26	宗谷	稚内市	稚内中央小学校		
4		仁木町	仁木中学校	27		利尻富士町	鴛泊中学校		
5	後志	古平町	古平小学校	28	オホーツク	佐呂間町	若佐小学校		
6		二セコ町	近藤小学校	29		紋別市		小向小学校	
7	胆振	むかわ町	穂別小学校	30				渚滑小学校	
8			穂別中学校	31				上渚滑小学校	
9		洞爺湖町	虻田小学校	32				南丘小学校	
10	洞爺湖温泉小学校		33				潮見小学校		
11	日高	浦河町	浦河第一中学校	34				紋別小学校	
12		函館市	恵山中学校	35				紋別中学校	
13			楸法華中学校	36				潮見中学校	
14		北斗市	石別小学校	37			十勝	音更町	下士幌小学校
15			島川小学校	38				上士幌町	上士幌小学校
16	渡島	木古内町	木古内中学校	39			上士幌中学校		
17		鹿部町	鹿部中学校	40		釧路	釧路町	知方学小学校	
18		八雲町	野田生小学校	41				昆布森中学校	
19			落部中学校	42	根室	別海町	上春別中学校		
20		七飯町	大沼岳陽学校	43				上西春別中学校	
21		檜山	厚沢部町	館小学校					
22	上川	士別市	朝日中学校						
23		中富良野町	西中小学校						

全道14管内43小中学校から、受入れを希望して頂きました。

令和2年11月11日現在